

令和元年度 学校自己評価表 （計画段階・**実施段階**）

77

福岡県立八女農業高等学校長 印

学校運営計画（4月）		評価（3月）			
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさを苦しさで耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に貢献できる人材づくりを目指す。				
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標	A		
<b>【成果】</b> 校外外で生徒の主体性を生かした様々な取組を行うことにより、地域に開かれた学校を体現することができた。またキャリア教育の充実を図り、生徒自らが生き方や進路を主体的に考え、取り組む力を育成したこと、早期の高い就職内定や、4年制大学合格をはじめとする進路実績ができ、本校の教育活動に対する評価も高まってきている。 <b>【課題】</b> 昨年度より30名の4学科体制をスタートさせた。弾力的なクラス編成など生徒の学びの希望を生かし、安心できる学習環境で専門性を確実に習得できる専門教育を目指す。	(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、農業に関する将来のスペシャリストとして必要な専門知識・技術を習得させる。	① 学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ② 安心して授業に取り組む学校環境を作る。			
	(2) 生徒一人一人を見据え、学習への積極的な取組と活性化を実現するため、「基礎・基本の徹底」を図る。	① 教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ② 少人数クラス・習熟度別学習の充実、ICTの活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。			
	(3) 自律心と思いやりのある心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	① 挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ② 学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりに努める。 ③ 全職員の情報網を活用して、いじめの発生防止と早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④ 特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。			
	(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	① 生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。 ② 部活動加入を推進し、併せて学校活性化を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る	各科目の学習目標や計画、評価を点検し、生徒に学習の見通しをもたせる。 特別活動や総合探究を通して、生徒に人生の在り方や生き方を考えさせ目標を持たせる。 考査前学習を実施して学習内容を深めさせ、基礎学力の向上を図る。	B B A	B	1. 基礎学力の確立と欠点者の指導を強化。（考査7日前からの欠点者指導） 2. 基本的な生活習慣の確立（欠席・遅刻に対する指導強化・減少） 3. 生徒の自己目標の設定（ポートフォリオ）と総合探究・LHRや、各教科及び特別活動の効果的な指導の検討（実施計画、教材の作成、アクティブラーニング等） 4. 今後の学科及び教育課程編成の検討 5. 新学習指導要領の実施準備（教務規程の変更、観点別学習状況の評価について検討） 6. 教務部内の業務内容・担当の見直しと効率化 7. ノーチャイムの実施と授業時間の厳守 8. 授業規律の構築（学習の姿勢づくり、言葉遣い等の指導） 9. 提出期限の厳守 10. 情報共有と個別指導の充実（学年別教科担当者会や小委員会との連携）
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる	教務規程や授業規律を見直し、生徒の学習環境づくりに努める。 学習態度を育成するために、学習の過程などを多面的に評価する。 学年別教科担当者会や各部・各科とも連携し、情報共有や個に応じた指導を図る。	A B A	A	
	専門高校の特色を生かした新学科の編成や教育課程について検討する	新学習指導要領をもとに、各教科に係る教育内容の検討や導入を進める。 本校の将来ビジョンを構築し、新学科の編成及び教育課程の検討を進める。 本校グランドデザインの達成に向けて、各科の特色ある教育課程の実施や検討を図る。	A A A	A	
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図り、地域から信頼される生徒の育成	季節や体調・学校行事などその時に応じた身だしなみの指導を徹底させる。 校則の確実な周知を図り、全職員による一貫した指導を行うことで、規範意識を高め、問題行動を未然に防ぐ取組を行う。 交通マナーや郊外指導を充実させ交通事故の減少を目指す。	A A A	A	
	学校行事を通して自らを律し、鍛錬し、愛校心を育むとともに地域社会に貢献できる生徒の育成	生徒会活動や農業クラブ等への積極的な参加を通して、愛校心を育み、学校生活の充実度100%を目指す。 地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加することで、地域を大切に思う気持ちを育成する。 学年・学科単位での指導を中心に行い指導部と連携した継続的な指導を行う。	B A A	A	
	自他の安全に対する意識を高める安全教育の充実と危機管理体制の整備	情報モラル教育やネットパトロールを通して自他の気持ちを尊重する態度を育み、ネットトラブル等の発生件数を減少させる。 携帯電話の使用については全職員・保護者の共通理解のもと取組、組織的に行う体制を整える。 学校・家庭・関連諸機関等との組織間連携を密に行いトラブルの未然防止と素早い初期対応ができる体制を整える。	A B A	A	
					1. 生徒指導規定の見直しを行う。（服装・頭髪等の判断基準、バイク通学、アルバイト、ケイタイ・スマホ等） 2. 全職員に共通理解を図り一貫した指導を行う。 3. 運動部活動を中心とした挨拶運動と規範意識を醸成する。 4. 各種委員会の活性化を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3学年担任との定期的な会議を実施する。	A	A	1. 3年担任が3者面談を2回（4月と7月）行うことで進路意識が明確になるので、次年度も早期に実施し生徒の進路先を明確にしたい。 2. 就職は地元志向が強いが、県外にも大手企業があるので選択肢を広げて考えさせたい。 3. 進学は大学進学者が多数いるので、国公立大学や難関私立大学への進学も視野に入れて検討させたい。
		関係機関との連携を行い、生徒が必要とする情報を積極的に発信する。	A		
		生徒の進路希望を2年次から把握し、適切な進路指導を行う。	B		
	学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	企業訪問により求人票を多く獲得し、生徒の適性に合った企業探しを支援する。	A	A	
		就職では、10月末に内定率80%、1月末に内定率100%を目指す。	A		
		進学では、面接と作文指導を徹底し、合格率100%を目指す。	B		
	3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	進路のしおりを利用しやすいように改善し、生徒の活用を促す。	A	A	
		課外授業を充実して学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。	A		
		資格取得を推進する。	B		
保健部	生徒の健康状況の把握と理解、およびあらゆる領域での活用	生徒の健康状況の課題を把握・理解し、改善に向けた取り組みを進める。	A	A	1. 生徒及び保護者の心と身体の健康意識の高揚について啓発して行く。 2. SC・訪問相談員・SSWの活用については、生徒を中心に置き、効果的な連携ができるようにしていく。 3. 保健委員会及び美化委員会活動の活発化を勧める。 4. 高等学校保健会筑後地区生徒保健委員研究発表大会での発表にむけての活動を活発化する。 5. 他分掌との連携を円滑にする。 6. 校内での献血について検討する。
		あらゆる領域を活用し、健康の意義等を生徒へ正しく理解させ、改善に向けて継続的に支援する。	A		
		健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談員制度について、生徒・保護者へ周知し、積極的活用を促し取り組みを充実させる。	A		
	安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み	各学期に美化コンクールを実施し、表彰を行うなど、校内美化活動について、生徒の意識高揚を図り清掃活動を徹底する。	B	A	
		本校薬剤師による教育環境の調査・点検を敢行し、改善を図ることで学習環境の「整美」を行う。	A		
		学年・教育相談委員会・SC等、関連機関との連携を図り、生徒支援に努める。	A		
	委員会活動（保健委員会・美化委員会）の活性化と健康教育の充実	保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。	B	B	
		高等学校保健会への積極的参加、論文・ポスター・標語等の上位入賞をめざす。	B		
		「保健だより」等の健康に関する啓発活動の充実を図り、生徒自らが心身の健康管理ができるようにする。	A		
研修部	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとした新学習指導要領に対応するための職員研修会の実施。	A	B	1. 学校の教育課題や職員のニーズに対応した職員研修を企画していきたい。また、学科の特色を生かした研修も計画していきたい。 2. 来年度も実習生を3名受け入れる予定のため、早めに準備を行いたい。日程などの打合せを担当の先生としっかり行いたい。 3. 「朝読の時間」の充実などに向けて、もう少し活性化させる必要がある。図書館利用に向けてのイベント企画を充実させていきたい。
		学校の教育課題や職員のニーズに対応した研修を企画する。	B		
		ICTを活用した効果的な指導が実施できるように、電子黒板の活用を中心とした研修会を実施する。	B		
		職員の校内外での研修、初任者・先任者及び一般の研究授業、授業アンケートの分析結果等を掲載する。	B		
	初任者研修・教育実習生の指導力の育成に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	研修部の研修のみでなく、OJTやメンター制を活用することで、学校全体が協力し総合的に研修を推進していく。	B	A	
		初任者や教育実習生の研修がスムーズに展開できるように関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。	A		
		初任者や教育実習生の指導力育成につながるように、指導教員との連携と研修の企画を行う。	A		
	図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	図書委員の指導の充実を図り、委員を中心とした「朝の読書」の実施や、読書の活性化を推進する。	A	B	
		図書館利用を増やしていくための蔵書の拡充やイベントの展開を行う。	B		
庶務広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う（会議、行事に係る資料の印刷、管理等）。	A	A	1. PTA行事への職員の参加をもっと促す。 2. 『八女農だより』とPTA新聞『ひいらぎ』のありかたを再考する。内容の重複もあるので、一本化してページ数を減らして回数を増やすなどタイムリーな話題を扱えるように検討する。 3. 『クラッシャー』をデータ保存する。 4. 広報ネタは、事後になることが多い。取材も必要なので、事前に係に知らせる。 5. 取材が間に合わないので各学科広報委員を中心に記事（5W1H）画像、生徒の感想をまとめて共有フォルダーに保管する。（特に農業の専門用語の説明とも提出） 6. 校門で農産物を販売をする場合も事前に係に連絡をする。
		防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。	A		
		表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。	A		
	保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。	PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。	A	A	
		PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	A		
		PTA各種委員会活動（合同交通指導、PTA新聞発行、PTA校内バレーボール大会等）全般への支援を行う。	A		
	広報活動を推進し、中学生や地域に浸透を図る。	広報委員会と連携し、八女農だより発行等で、本校の活動を発信して行く。	A	A	
		各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信して行く。	A		
		各学科の販売実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内広報する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			
第1学年	基本的な生活習慣の確立	朝のHRや授業等に遅れないように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。	A	A	A	1. 遅刻10回指導を受けた生徒3名。学習習慣の確立。 2. 「総合的な探求の時間」で自分の進路に対して前向きな意識を持たせる指導が必要であった 3. チェックカード10枚指導を受けた生徒1名。チェックカードについては、教師側が不徹底なので不公平感があり、指導が徹底しない。規範意識を持たせ、自分で正しい判断ができるような指導を行う。 スマホ使用に関しては学校全体で指導を再考する必要がある。
		挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。	A			
		教科担任との密接な連携を行い、学習習慣の確立を図る。	B			
	進路目標の決定	進路アンケート等を活用しての個人面談や保護者と連携して進路目標を決定していく。	B	B		
		部活動、生徒会活動、農業クラブ活動が希望進路を実現する上で大切であることを理解させ、積極的に取り組ませる。	B			
		各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。	A			
	規範意識の高揚	他人に優しく接する意識を持たせ、いじめが起きないように気を配り、教科担任・学年での連携を図り、迅速な対応を行う。	A	A		
		物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。	A			
		校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。	A			
第2学年	規範意識の深化	生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。	A	A	A	1. 進路実現に向け、進路指導との連携を密にしていく。 2. 2月以降は、実質現2年生が最高学年になっていくので、3年生になる心の準備をしっかりとさせていく。 3. 修学旅行、入試業務と多忙になる中でも、生徒指導を今まで通り連携していき、問題行動等を起こさせないように努力する。
		問題行動につながる内容については情報を共有し、学年団として取り組む。	A			
		褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。	B			
	基本的な生活習慣の強化と学習環境の整備	基本的な生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。	A	A		
		教室の環境を整える。（持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底）	A			
		お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。	B			
	進路実現に向けた指導の充実	個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。	A	A		
		進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。	A			
		各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。	B			
第3学年	進路実現に向けての意識づけ	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。	A	A	A	1. 農業クラブの各種競技に関して、学科と協力して出場者の育成に力を入れる。大手企業へ推薦する生徒の掘り起こしを2年後半から考えていた方がよい。 2. 成績不振の生徒が多く、進路内定が決まった後も指導の必要な生徒がいる。 3. 遅刻者指導に関して、クラス・学年の指導内容を明確にする必要がある。
		個人面談及び三者面談を計画的に行い、希望進路を把握する。	A			
		進路指導部及び学科、各教科と連携し、面接指導の徹底に努める。	A			
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生徒会・農業クラブ役員を中心に、生活面・学習面において学校をリードしていく意識づけを図る。	A	A		
		生徒会や農業クラブの行事の際に、1, 2年生を指導できるよう支援する。	A			
		学校行事や学年集会等の訓話を通して八女農生としての自覚と愛校心を培い最上級生としての意識や態度を育成する。	B			
	基本的な生活習慣及び規範意識の確立	進路決定後も生活習慣の乱れがないよう、無断欠席や遅刻者をなくす指導を継続する。	B	B		
		頭髪・服装については生徒指導部と協力し、カード指導を利用して徹底を図る。	B			
		コミュニケーション能力の向上も考慮し、挨拶の徹底を図る。	B			
農務部	農業クラブ活動の充実	クラブ員意識の高揚	B	A	B	1. プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導をより組織的に行う。 2. 今後も農場・実験室・実習室の環境整備に努め、整理整頓された所で授業の展開を行っていく。 3. イベントの精選を行い各科・各分署との協力を強化する。 4. 専門分野の研修に積極的に参加できる体制づくりを各科で協力して行う。
		プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導をより組織的に行う。	A			
	農業教育の理解と学校PR	農業教育の理解	B	B		
		広報活動を推進する。	B			
		インターンシップ事業を充実する。	B			
	農場施設設備・備品の改善と農場の環境整備の充実	機器・器具の整理・整頓及び有効活用、充実した備品の購入を行う。	B	B		
		授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備を行う。	B			
	第27回福岡県高校生産業教育フェア事務局の運営を各科協力して行う。	事務局として充実した大会が行えるように、事務局担当職員をはじめ各科協力して取り組む。	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
生産技術科	教育内容の精選と充実	2年時からプロジェクト学習を行い、専攻学習内容の充実を図る。	B	B	B	1. 2年～3年次でのプロジェクト研究の流れがうまくできていない。 2. 新しい教育に対応するため施設や機器の更新は継続して要求していく。 3. 今年度は毎週学科会議を実施できたが、次年度以降も実施していきたい。 4. 生産技術科の生徒は指導が行き届いていない面が多くみられるので検討する。 5. 全学年の学科別集会を行うなどの取り組みを実施しているがなかなか指導できていない。 6. 資格の取得率を向上させるために、計画性をもって継続的な指導を行う。
		各専攻の農産物品質を高め、学科PRに努める。	B			
		生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。	B			
	進路実現に向けた組織的な指導	組織的に指導を行い、規範意識や職業意識を高めさせる。（挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等）	B	B		
		1年から進路先を研究させ（進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など）進路実現に向けて取り組ませる。	B			
		進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う（面接、小論文、4年制大学進学対策等）。	A			
地域の要望に貢献できる教育活動	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の体験授業を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。	A	B			
	研究機関と連携し、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。	B				
	地元農家に学科の学習内容について広報する。	B				
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産を構築する。	A	A	B	1. 毎時の授業において服装、頭髪、言葉遣いにおいて十分な指導がなされていなかった。この点について次年度は強化を図りたい。 2. プロジェクト活動や課題研究では、本年度以上にきめ細やかな指導を行いたい。
		一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し特色ある教育内容の充実を図る	A			
	基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い規律ある学校生活を送らせる。	B	B		
学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。	A	B			
	資格取得のための指導を強化し合格率の向上と上級の資格取得を目指させスキルアップを図り、進路実現に繋げる。	B				
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	2年時からプロジェクト学習を行い、専攻学習内容の充実を図る。	A	A	A	1. 農業クラブ県大会で最優秀賞が取れるよう2年生からプロジェクト活動を実施できるよう教育課程、持ち教科を改善。また、全国大会でも連覇を目指す。 2. 3年生全員の年内進路決定を実現のために担任、進路部との連携。 3. 動物科学専攻と食品加工専攻の教場が本校と北山農場に分散しており、また放課後の実習や当番実習もあり、科会議の実施が困難。ぜひ授業時間内に会議時間の組み入れてほしい。 4. 北山農場の動物園化をさらに推進し、園児や小学生が十分に動物と触れ合える環境を整える。
		各専攻の農産物品質を高め、学科PRに努める。	A			
		生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。	A			
	社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底	組織的に指導を行い、規範意識や職業意識を高めさせる。（挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等）	B	B		
		1年から進路先を研究させ（進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など）進路実現に向けて取り組ませる。	A			
		進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う（面接、小論文、4年制大学進学対策等）。	B			
開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の体験授業を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。	A	A			
	研究機関と連携し、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。	B				
	地元農家に学科の学習内容について広報する。	A				
生活科学科	基本的生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。	B	A	A	1. 生徒に早い段階から意識を持たせ、全員の進路実現・進級のため全職員で指導する。 2. 進化する八女農業や新しい教育に対応するため、授業の改善や工夫を行う。 3. 農業クラブ活動をさらに活発化させ、九州大会、全国大会を目指す。 4. 農業鑑定の学科代表の指導体制を整え、全国大会を目指す。 5. 生徒を中心とした地域との連携や新しい取り組みにより学校の活性化を図る。 6. 職員間で共通理解を持ち、生徒指導にあたる。
		授業開始・終了での指導を共通理解を持って行う。	A			
		遅刻・欠席・早退の届け出の徹底し、事後指導について確実に行う。	A			
	学習成果を進路に結び付ける	農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業を展開する。地域連携・外部講師による事業を積極的に導入する。	A	A		
		多くの生徒の希望に合うインターンシップ先の開拓を行い、進路実現につなげる。	A			
		進路カードの活用により生徒を把握し、学科職員の共通理解の基、担任を中心に進路指導を行う。	A			
あらゆる場面を学習発表の場と考え取り組む	八女農祭で生徒一人ひとりが活躍し、学習成果を発表し、地域へPRする。	B	A			
	各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成を行い学科としての協力・生徒間の絆を深める。	A				
	プロジェクト学習の発表会を年2回行い、科学的思考力や問題解決能力・コミュニケーション能力を育成する。	A				